

令和 4 年度 学校評価シート

学校名：県立はまゆう支援学校 校長名：小 原 美佐香

目指す学校像・育てたい生徒像（スクール・ポリシー等に基づいて記載する）

- ・児童生徒の発達に段階や障害の特性等に基づき、個々の教育的ニーズに対応した指導・支援を行うとともに、保護者や地域の期待に応え信頼される学校。
- ・自立と社会参加を目指し、心ゆたかにたくましく生きようとする児童生徒

学校評価の公表方法

- ・本校ホームページにて公表する。

現状・進捗度

A	十分に達成している。	(80%以上)
B	概ね達成している。	(60%以上)
C	あまり十分でない。	(40%以上)
D	不十分である。	(40%未満)

自己評価（分析、計画、取組、評価）

番号	計画・取組			評価（2月8日現在）			
	重点目標	現状	具体的取組	評価項目と評価指標	進捗度	進捗状況	今後の改善方策
1	児童生徒一人ひとりの教育的ニーズを踏まえた授業の充実を図る。	B	毎週1回「15分授業改善」の時間を確保する。	授業改善の時間を確実に実施し、効果的に活用している。	B	年間通じて、15分授業改善を週1回取り組み、定着してきた。	15分授業改善は、今年度南紀支援学校でも実施し、成果があったので、継続して取り組んでいく。次年度も、南紀はまゆう式マネジメントシステムの構築をテーマに、授業改善を図っていく。
			新学習指導要領を踏まえ、授業を展開する。	全校研修と授業づくりが連携し改善につながっている。	B	積極的に外部講師や指導主事を招聘し授業改善に取り組んでいる。	
			効果的な教育課程のPDCAサイクルを実現する。	単元シートを活用し、指導計画・評価を行っている。	B	年間単元題材配列表の作成に取り組んでいる。	
2	児童生徒の健康の増進及び安心・安全な教育環境の整備を図る。	B	新型コロナウイルス感染症等の情報を提供し、感染予防に努める。	感染症対策や健康安全の取組を日常的に行っているか	B	関係機関と連携し、速やかな保護者への連絡に努めた。	新型コロナウイルス感染症の対応は、関係機関と連携し、丁寧に進める。また、年度当初に避難訓練等を行い、危機等発生時対処要領の周知徹底を図る。両校舎で、オンラインを活用し即時に情報共有ができるような体制を構築する。
			ヒヤリハット報告を全教職員で共有し危機管理意識を高める。	事故の状況と原因を理解し、未然防止に努めているか。	C	詳細な情報共有が不十分で、対応が遅れがちであった。	
			計画的、組織的に防災学習を実施し、全校での訓練を行う。	防災に関する備えを整えることができたか。	B	全校での避難訓練や外部講師による防災学習に取り組んだ。	
3	センター的機能を充実させるとともに地域に開かれた学校づくりを推進する。	C	地域の人材を外部講師として招聘する	地域の外部講師を年間3回以上招聘している。	B	進路学習、各教科等で地域の外部講師を24回招聘した。	地域の外部講師の授業により、児童生徒の学びの充実を図ることができている。今後も継続していきたい。知的障害、肢体不自由、聴覚障害の3つの部門のある学校でもあるので、その専門性を複合的に発揮していく。
			HPや各種配布物を通して地域に発信する。	年間20回以上の情報発信の機会を設定している。	B	HPに、支援だより等を21回掲載したが、地元紙での発信は不十分であった。	
			校区内の学校や関係機関と協働して支援を行う。	地域において特別支援教育の啓発活動を実施している。	B	地域の小中学校の教員を対象とした夏季研修会を実施した。	
4	南紀はまゆう支援学校（仮称）の開校に向けて、学校運営組織を整備し、教育課程を編成する。	C	計画的に両校合同会議を実施し、課題解決を図る。	両校で計画的に会議を設定し、検討している。	B	オンラインを活用して、職員会議等、各会議を合同で実施した。	2カ所での運営となるため、児童生徒の安全、安心な学習活動を行うためには、すべての教職員が組織的に対応することが必要不可欠である。継続して、説明会やオンライン、動画配信、さらに、文書等で細やかに情報提供に努める。
			各校の教育課程をもとに教育課程を編成する。	各部門で教育課程を編成し、全教員で共有している。	B	各部門の教育課程を編成、共有し保護者に向けて説明を行った	
			両校で連携し、統合校の施設設備、学校運営等について保護者に説明する。	保護者に機会を捉えて、情報を提供している。	C	オンライン、動画配信を活用し、年間2回実施したが、参加者が少なかった。	

学校関係者評価（2月16日実施）

- ・相談支援の立場から、子どもが卒業してからではなく在学中から先生を通じて家庭との関係を構築し、家庭、進路先、学校との連携、引き継ぎをより丁寧に行いながら、子どもと家庭が進路先へスムーズに移行できるような仕掛けをしていきたいので、協力をお願いしたい。
- ・学校運営協議会委員として、クリエイティブな分野における授業提供や保護者、教員研修（外部講師として）に、学校と連携して進めていければと考える。ICT機器の活用や各専門分野の企業等と連携して取り組むことで、子どもたちの卒業後の世界が広がるのではと考える
- ・地域連携の観点から、子どもや保護者のための情報発信や取組内容、関係機関との連携について、これからの時代を見据えた支援や手立て、方法などの再検討をお願いしたい。
- ・学校課題を共有することで、各分野の支援者の役割を明確化でき、一歩進んだ地域支援、地域貢献へとつながるのではないかと考える。
- ・地域に住む者として、学校からの情報発信は少ないと感じている。住民の方も新しい学校ができてよかったと思えるように積極的な情報発信をしていただきたい。
- ・令和5年4月の統合校開校にあたり、保護者や子どもの思い、願いがいっぱい詰まって令和5年4月の開校につながっているということを学校として教職員として確認し、次に繋いでいくことが大事だと考える。また、新校歌、新校章の由来、コンセプトは必ず次に伝えていってほしい。